

林野庁長官、次長が林業機械化センターを視察

林業機械化センター所長 川添 峰夫



プロセッサの操作を体験される川村長官（中央）



センター職員から路網の説明を受ける川村長官（中央）

6月23日、川村林野庁長官が高性能林業機械による路網整備等の実態を把握するため、林業機械化センターを視察されました。長官は、センターの職員から各種高性能林業機械の性能について説明を受けるとともに、プロセッサに乗って造材作業を体験されました。現場視察の後、長官は、低コスト作業体系の構築のためには高性能林業機械を操作する技術者の早期育成等が不可欠であり、機械化センターの研修の充実を図るよう指示されました。

また、10月4日には、辻次長が視察されました。次長は、四万十式の路網作設技術定着のため、センター職員を四万十町に派遣して技術の研鑽を行い、来年度は路網作設研修を充実するよう指示されました。



センター職員に訓辞される辻次長（中央）



センター職員から路網の説明を受ける辻次長（中央）

北京林業幹部学院朱副院長の来所

技術研修課 実施係長 高橋昌彦

去る6月30日、当研修所と姉妹提携を結んでいる中国北京林業幹部学院の朱副院長ほか3名の方々が当研修所を訪問されました。

今回の朱副院長一行の訪問は、我が国の森林・林業関係の研修カリキュラムの作成方法や研修の運営方法について学ぶほか、今後の協力関係の具体化について意見交換することなどが目的でした。幹部学院側からは、研修の年間スケジュールの立て方や講師をどのように招聘しているのかといったことなど多岐にわたる質問が出されたほか、来年度には幹部学院の幹部が訪日してより詳細に研修方法を勉強したいとの意向が示されました。

一行は、この後、多摩森林科学園を見学して次の訪問先へ向かわれました。



城土所長（左）と朱副院長（中央）



多摩森林科学園井業務課長（左）と朱副院長（右）

八王子消防署より感謝状の授与

総務課長 平沢 敏正



城土森林技術総合研修所長（左）と入江八王子消防署長（右）

当研修所では、森林林業教育を行う指導者を養成する研修等の中で、毎年、野外活動での安全対策の一環として救急救命に関する講習を実施しています。その実績により、9月10日、八王子消防署より入江消防署長が訪問され、城土所長に感謝状が渡されました。所長は、「これを機に、より一層研修の充実に努めていきたい」と感謝の意を表しました。

講 義 紹 介

アウトドアライター 天野礼子講師

『「緑の時代」をつくる』

教務指導官 寺本睦巳

9月11日から3週間「森林技術研修」を実施しました。この研修は、Ⅱ種採用の若手職員を対象とし、将来中堅幹部として業務を遂行する上で必要な知識の付与、視野の拡大、業務能力の向上等を目的としています。9月21日には天野礼子先生に『「緑の時代」をつくる』と題してご講義をいただきました。

天野先生は、日本の川やダム、公共事業に関する著作等で著名なアウトドアライターで、近年は「川を再生するには森を生き返らせることが必要」と“森仕事”へ視野を広げ、月刊「森林組合」誌に「“緑の時代”をつくるために」と題してインタビュー連載をされる等、林業を再生するための様々な活動を展開されてみえます。

先生には、「“林業再生”最後の挑戦」(※)のご執筆に加え、“川仕事”、“森仕事”と大変にご多忙の中を高尾までお越しいただき、2時間半に亘ってご講義いただきました。“川仕事”にまつわるお話から、公共事業に対する考え方の国内外での変化、“森仕事”に関わり始めた経緯や、京都大学にできた「森里海連環学」を通じた活動、日吉町森林組合を始めとする国内林業の元気な現場のご紹介から、木質バイオマス利用、新生産システムや九州局での取組に至るまで、とてもテンポ良くあっという間の2時間半でした。

そして、質疑応答の時間では、研修生からの質問にとっても丁寧にお答えいただくとともに、最後には、力強い励ましのお言葉をいただきました。以下、その一部をご紹介します。

「森林・林業の現状を知ってもらい、そこで何かが起ころうとしていることを、私は自分の持っているペンで国民にお知らせするお手伝いをします。皆さんは、今年の研修を受講したことを千載一遇のチャンスと捉え、林業再生のために林野庁が今しようとしていることをしっかりと地元伝えてください。」

「私の師匠の開高健が私に残した言葉『悠々として急げ』をぜひ覚えておいてほしい。今の林業の現状にあっては林野庁の皆さんは、悠然として、しかも急ぐことが必要なのです。」

(※「“林業再生”最後の挑戦」は、11月10日に農文協から出版されました。)



[ご講義内容の全文は、当研修所 HP に掲載しています。]

森林土木技術者育成研修の概要

教務指導官 金口 健司

本研修は、国有林における治山・林道事業の調査・設計を担う技術者を育成するため、森林官等や森林管理署等の治山・土木係長等を対象に今年度初めて実施しました。期間は前半(5月29日～6月9日)と後半(11月27日～12月8日)に分けて行いました。

前半は、森林土木事業と環境保全、測量の実習、林道・保安林管理道の調査設計など、林道事業に重点をおいたカリキュラムとしました。各種測量機器の操作方法の習熟も行い、城山国有林において、機器を使った林道の設計を実施しました。後半は、治山工事の調査設計積算などを中心としたカリキュラムで、施工管理や構造物検査のポイント、工事検査の視点など、実際の施工での留意点、施工後の管理など、事業の順に従っての講義・実習となりました。実習では、実際の施工事例の見学から適正な設計・積算、管理の重要性を学び、さらに長野県の国有林で溪間工の調査設計の実習を行い、現地踏査、設置する溪間工の



設計積算全般について、一連の作業を全て行い、溪間工の調査・設計についての自信を深めました。

研修生からは、「基礎が理解できた」「治山工事が完成するまでの内容が理解できた」「CADを使った製図も取り入れてほしい」など、資質向上をうかがわせる感想が寄せられました。

今年度は、森林土木事業を担う技術者としての基礎知識や実際の設計・施工・管理など、事業の一連の手順に従った内容としましたが、今回の経験から更に充実したカリキュラムとなるよう工夫して行きたいと思えます。



「森林ふれあい研修」を受講して

総務課庶務係 片山青澄

11月13日より実施された森林ふれあい研修で、森林環境教育について、実習をかねた講義を受け学んだことの一部を紹介します。

森林環境教育の導入部分に、「アイスブレイキング」というものがあります。これは参加者の緊張をほぐし、コミュニケーションを促すことで良い雰囲気を作り上げるもので、また互いの信頼感や集中力を高めることで危険を回避することにもつながるそうです。さらに、主催者側は一方的な技術や知識を指導するのではなく、主役は参加者であることを意識し、参加者が自発的に感じたり考えたり、視野を広げるきっかけとなるようにすることを助けるのが重要であることを学びました。今回は講師の指導のもと、プログラムの一部を体験しながらの講義であったため、すぐに役立つ内容でした。多くの人が自然に対して興味を持ち、コミュニケーションが広がるきっかけとなるように、今回の研修で学んだ内容を今後の業務に活かしていきたいと考えます。



林業機械化センターの取組

作業道作設研修の概要

機械化指導官 濱本 高光

8月28日から9月8日までの日程で実施した「作業道作設研修」では、地方自治体の職員や各地の森林組合の職員14名が参加し大型の機械を使用した作業道作設について学んでもらいました。

この研修は、低コスト作業道と高性能林業機械による作業システムとの組み合わせにより、効率的な木材生産のシステムを全国に普及させるために昨年から実施しているものです。その目玉となる最新型の作業道作設機械が「ザウルスロボ」です。従来は作業道を作設するにあたって、機械による掘削と作業道作設に支障となる樹木の除去を別々に行う必要があり、作設にも高いコストがかかっていました。それに比べザウルスロボはバックホウの先端部分に恐竜の頭部に似た、樹木等をつかめるアタッチメントが装着されており、掘削と樹木の除去が同時に行うことができます。

実際の研修では、作業道の作設の設計から施工・維持管理に至るまでの知識と技術の習得、既設作業道の施工事例についての実習、作業道作設の先進事例をもとに実際の作業道を作設のうえ検証、ザウルスロボを使用した操作実習及び低コストの作業道作設技術の習得を主に実施しました。研修を修了した研修生には、労働安全衛生法に基づく、「車両系建設機械技能講習修了証」が授与されました。

研修に参加した研修生は、「最新型の機械で低コスト作業道技術を習得し、地域の林業に適した技術を確立したい」「ザウルスロボは倒木の処理が容易。多くを学んで地元での仕事に活かしたい」など、短期間での研修でできる限りの技術を習得すべく、真剣な様子で研修に取り組んでいました。高度な技術者を今後も養成すべく、来年度はさらに充実した研修の実施を予定しています。



最新機械の「ザウルスロボ」

故永戸太郎氏銅像除幕式を開催

機械化研修係長 中島豪威

ソーチェーン（チェーンソーの刃）の目立て技術の第一人者故永戸太郎氏の業績をたたえるブロンズ像が「永戸太郎氏を偲ぶ会」によって制作され、その除幕式が9月22日、林業機械化センターで行われました。

主催者を代表して、城土森林技術総合研修所長が挨拶し、高性能林業機械に取り付けられているチェーンソーの重要性について語り、故人の功績と現場の技術の重要性を強調しました。

続いて、故人の親族や親しかった方たちから謝辞が述べられました。

センター内のギャラリーには、永戸氏が目立て指導で使用した教材やチェーンソーの模型などが集められており、貴重な資料となっています。



ご遺族による除幕式



故永戸太郎氏
ブロンズ像

森林鉄道フェスティバル開催

機械化研修係長 中島豪威



10月29日「第一回森林鉄道フェスティバル in 根利」が林業機械化センターで開催されました。このイベントは、センターに展示されている蒸気機関車「ボールドウィン」の修理を行った鉄道ファンや市民グループが主催し実施したものです。当日は、地元住民をはじめ多くの方がセンターを訪れ、現役当時の稼働状態といっても過言ではないほどきれいになった機関車の修復作業の完了を祝いました。

このほかにも、ミニ機関車の体験試乗や、鉄道関連グッズの販売・森林鉄道のパネル展示などがあり、およそ600名が訪れ、センターでかつてないほどの人出で1日中大賑わいとなりました。

専攻科講義紹介

専攻科生の研修日記

専攻科第46期研修生 甲斐晴久・中西誠

高尾での研修生活もあっという間に8ヶ月がたちました。東京での生活にも慣れ、とても充実した研修生活を日々過ごしています。

講義では、新たな知識や技能を学ぶ際にはどうすれば実践に生かせるかを常に考え、机上の知識ばかりでなく、実践の伴わない職員にならないよう気をつけています。

これまでの講義の中から、研修の様子をご紹介します。



森林土壌を調査中

「森林土壌」

8月に東京農工大の生原教授の指導のもと、城山国有林で森林土壌調査を実施しました。

土壌調査をすることで、構造や水湿状態、腐植状況がわかり、適地適木を判断する大きな材料となります。

特に、目と指先だけで土壌の水湿状態を判断する方法は、現場でも大いに活用できる手法であり、実践に役立てていきたいと思います。（甲斐晴久）

「架線系林業機械研修」

11月上旬に林業機械化センターで1週間、架線集材を受講し、実際に自分たちでエンドレスタイラー方式の架線を張り、架設後、安全点検を行い、集材機の運転まで体験しました。索をどの様な手順で張っていくのか、またそれぞれの索がどの様な働きをしているのか、身をもって体験することが出来ました。この林業機械化センターで学んだ架線集材技術を今後の安全指導に生かし、災害のない職場を目指していきたいと思います。（中西 誠）



初めての集材機の運転は緊張する

今年も海外研修を実施

技術研修課 研修企画官 池本育利

8月28日～11月10日、海外からの研修生を対象とした「持続可能な森林経営の実践活動促進Ⅱ研修」を実施しました。

タイ（アジア）、イラン（中近東）、セネガル（アフリカ）、ボリビア（南米）等まさに世界中から集まった13名（うち女性4名）の研修生は、厳しい残暑や晩秋の冷え込みに必死に耐えながら、無事75日間の研修を修了しました。

今日、世界的な課題となっている”持続可能な森林経営”の実践に向けた知識・技術の習得を目的とする当研修では、第一線で活躍中の行政官や研究者、学識経験者等による講義に加え、多様な森林様式や経営形態等の理解に資する現地見学を実施しました。



チームワークが抜群で、各講義において積極的・建設的意見が相次ぐなど熱心に取り組んだ13名は、最後にはそれぞれが「自国におけるアクションプラン」を作成し発表するなど、大きな成果と自信を携えて帰国の途につきました。

また、時間外においても職員有志による「阿波踊りセミナー」で盛り上がるなど、日本文化に対する理解も大いに深められたようです。

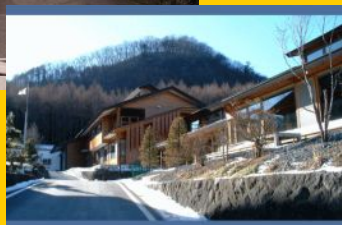


人事異動

転入（平成18年8月1日付）

●技術研修課 研修企画官 滝 勝也（林野庁 森林整備部計画課 市町村森林整備計画係長）

連絡先



林野庁 森林技術総合研修所 <http://www.fti-ag.go.jp/>

〒193-8570 東京都八王子市廿里町1833番地94

TEL 042-661-7121(総務課)

042-661-3560(教務指導官室)

042-661-3565(技術研修課)

042-661-3567(経営研修課)

FAX 042-661-7314

林業機械化センター <http://www.kannet.ne.jp/fmc/>

〒378-0312 群馬県沼田市利根町根利1455

TEL 0278-54-8332(代表)

FAX 0278-54-8280